

特別支援教育の現状

特別支援教育の対象の概念図

〔義務教育段階〕

義務教育段階の全児童生徒数 1063万人

特別支援学校

視覚障害
聴覚障害
知的障害

肢体不自由
病弱・身体虚弱

0.60%
(約6万4千人)

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害
聴覚障害
知的障害
肢体不自由

病弱・身体虚弱
言語障害
自閉症・情緒障害

1.37%
(約14万5千人)

2.54%
(約27万人)

通常の学級

通級による指導

視覚障害
聴覚障害
肢体不自由
病弱・身体虚弱
言語障害

自閉症
情緒障害
学習障害(LD)
注意欠陥多動性障害(ADHD)

0.57%
(約6万1千人)

※1
LD・ADHD・高機能自閉症等
※2
6.3%程度の在籍率

※1 LD (Learning Disabilities) : 学習障害

ADHD (Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder) : 注意欠陥多動性障害

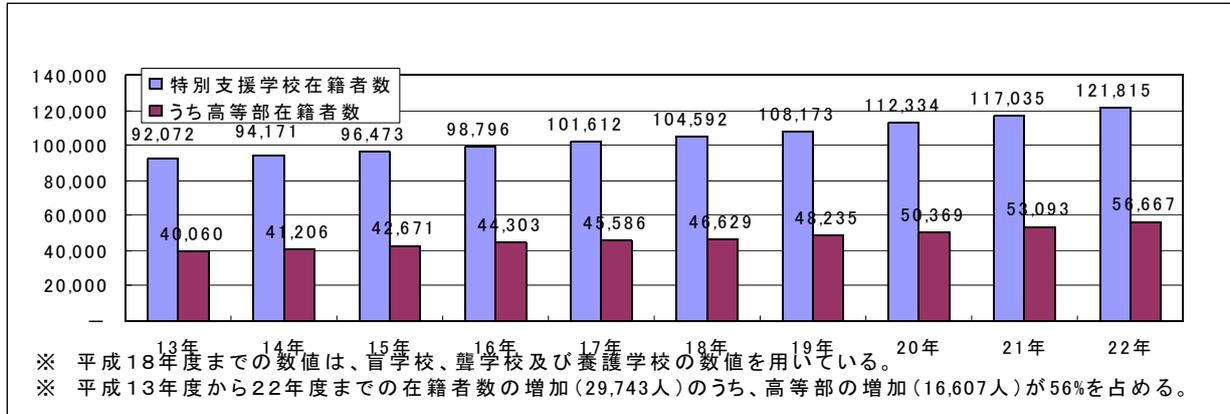
※2 この数値は、平成14年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づいたものであり、医師の診断によるものでない。

(※2を除く数値は平成22年5月1日現在)

①特別支援学校の現状（平成22年5月1日現在）

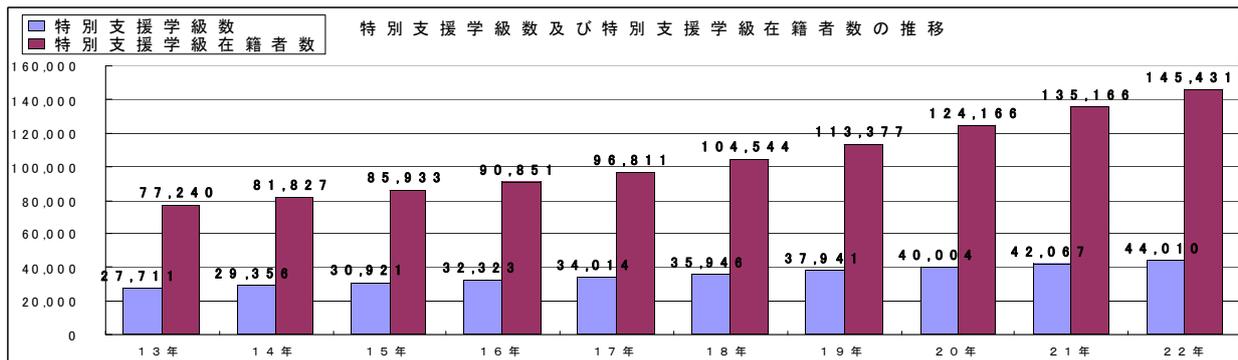
	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学校数	82	116	656	296	131	1,039
在籍者数	5,774	8,591	106,920	31,530	19,337	121,815

特別支援学校（国・公・私立計）高等部在籍者数の推移



②特別支援学級の現状（平成22年度5月1日現在）

特別支援学級は、障害の比較的重い子どものために小・中学校に障害の種類ごとに置かれる少人数の学級（8人を上限）であり、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害の学級がある。



※平成18年度までの数値は、盲学校、聾学校及び養護学校の数値を用いている。

③通級による指導の現状（平成22年度5月1日現在）

通級による指導は、小・中学校の通常の学級に在籍している障害の軽い子どもが、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態である。通級の対象は、言語障害、自閉症、情緒障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、弱視、難聴などである。



※各年度 5月1日現在